

青年国際交流事業の在り方検討会(第6回)

議事録

青年国際交流事業の在り方検討会（第6回）議事次第

日時 令和4年6月28日（火）10:30～11:30

場所 オンライン会議（Webex）

1 開会

2 議事

(1)事務局からの説明

(2)意見交換

(3)その他

3 閉会

出席者

（委員）

南島座長、家島委員、川澤委員、菊地委員、中村委員、宮寄委員

（内閣府）

黒瀬青年国際交流担当室長、田中参事官、山本調整官、梅田参事官補佐

（オブザーバー）

一般社団法人日本旅行業協会 千葉信一 海外旅行推進部副部長

一般財団法人青少年国際交流推進センター 駒形健一 理事長

南島座長 大変御多忙のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、最終回となります第6回「青年国際交流事業の在り方検討会」を開催させていただきます。本日もどうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、本日の出欠状況について事務局から御説明をお願いいたします。

梅田参事官補佐 ありがとうございます。

本日でございますけれども、オンラインによる会議の開催ということでございます。

委員の方全員の出席をいただいております。また、オブザーバーのお二方にも引き続き御出席をいただいております。

内閣府側からでございますけれども、黒瀬青年国際交流担当室長、田中参事官、山本調整官が参加をしております。

本日もどうぞよろしく願いいたします。

南島座長 ありがとうございます。

それでは早速でございますけれども、議事に入っていきたいと存じます。

議事次第を御覧ください。本日の議事は3点。まず、事務局から報告書について御説明をいただきます。その上で意見交換させていただきまして、その他というところまでの3点を議事次第のほうに書かせていただいております。本日は、報告書(案)について委員の皆様最終的な御確認をいただく予定となっております。

なお、形式的な軽微な修正点につきましては、そのまま修正をさせていただきまして、論点等につきましては、委員の皆様がこの場で御同意をいただきたいと考えております。

それでは議事に先立ちまして事務局より資料についての御説明をお願いいたします。

梅田参事官補佐 ありがとうございます。

それでは、本日でございますけれども、最終的な報告書の取りまとめということでございます。前回御提示をさせていただきました報告書(案)に沿って、前回いただいた議論を集約する形で事務局で取りまとめさせていただきまして、再提示をさせていただいているものでございます。

本日でございますけれども、私からは、前回からの変更点を中心に簡単に御説明をさせていただいて、その後、委員の皆様方に御議論をいただくという形にさせていただければと思います。

それでは、資料に沿って御説明をさせていただきます。まず、画面のほうを共有させていただきます。

こちらが最終的な報告書(案)となっております。副題として「令和の新たなプログラムと事業強化の視点」ということでまとめさせていただいております。

それから、目次でございます。今、こちらにありますけれども、まず、全体構成として「はじめに」、2つ目に「これまでの事業の実施状況と成果」、3点目に「事業強化の視点」、4点目に「新たな青年国際交流事業の在り方」、5つ目に「事業強化の視点を踏まえた新たなプログラムの方向性」、6つ目に「おわりに」という形の構成にしております。

前回は「事業強化の視点」は2の中に含めておりましたが、今回の検討会で一つのポイントとなる「事業強化の視点」については、3ポツという形で独立させた形の全体の構成にさせていただいております。

それでは、中身でございます。

まず最初に、2ページ目の「はじめに」でございます。こちらについては、検討会における課題設定について6つの記載をさせていただいておりますが、前回から大きな変更点はなく、この課題設定を最初に書かせていただいております。

それから、下のところに入りますけれども、「2.これまでの事業の実施状況と成果」でございます。こちらについては、先ほど御説明申し上げましたとおり、事業の実施状況と成果に焦点を当てた章立てということで独立をさせていただいております。こちらでは、これまでの成果を整理しているとともに、4ページにありますけれども、今後の評価に当たってということで「短期的・長期的の双方の視点を取り入れた効果検証を行い、説明責任を果たす」というような整理をさせていただいております。

それから、少し前に戻ってまいりますけれども、現在行われている5つの事業についてです。こちらも注記をさせていただきまして、国際社会青年育成事業については内閣府の主催事業で特定のテーマを設定しているということ。それから、注2、3、4とありますけれども、日本・中国については、航空機による派遣・招聘を行い、両国の親善交流を図る。日韓のほうもそのような形で記載をさせていただいております。東南アジア青年の船についても、ASEANとの共同事業で船上での共同生活を通じてリーダーシップを発揮する人材を育成していくということ。それから、世界青年の船については、参加各国の協力のもと内閣府の主催事業として行う事業であるということ。このようなことでそれぞれの事業についても明記をさせていただいたということでございます。

7ページ目は、今回独立させた「事業強化の視点」という章立てになってございます。こちらについては、検討会で御議論いただきました次世代グローバル・リーダーに求められる5つの要素、それから、事業を進めていく上でのベースとなっていく事業強化の視点をまとめさせていただいているところでございます。今回おまとめいただいた人材像についてですけれども、前回から表現を少しブラッシュアップさせていただいております。具体的には7ページ目の 、 の英語の表記でございます。前は「グローバリズム」「ボランティアイズム」という形にさせていただいておりましたが、この「イズム」という表現をまず改めるということ、それから、「Glocal」「Contribution」という形で社会貢献の意味をもう一度再整理させていただいております。

また、 の「未来志向」は「足下の課題だけではなく」という前提条件を書いておりますけれども、それに加えて「現在に至る歩み」も非常に重要であろうということで、こちらを追記させていただいたものでございます。

続きまして、それを受けて「三つの局面と事業強化の視点」ということでまとめさせていただいております。今の視点も踏まえまして、9ページ目の図表4も表現等を少し改め

させていただいているということでございます。

その上で「4. 新たな青年国際交流事業の在り方」でございます。こちらについては、この前の図表4の3つの局面に沿って新たな青年国際交流事業の在り方を整理させていただいたということでございます。

こちらが「三つの局面」でございます。

まず「募集・選考段階」。こちらでは、前回の御議論もベースにということでありまして、語学要件について少し御議論があったところかなと思います。こちらについては、10ページ目の注7で少し詳しく記載させていただいております。まとめということになりますけれども、語学力については依然重要なツールである一方で、意欲の高い者の参加に当たって語学力がハードルとなっている場合もあるのではないかとということも踏まえまして、そういう場合には、語学力習得に向けたサポートであるとか通訳の配置という環境整備についても検討すべきということに記載させていただいております。そのほか年齢制限についても御議論あったかと思っておりますけれども、こちらについても、引上げ等も検討事項であるということに記載させていただいております。

11ページ目からは、実際のプログラムについての記載をさせていただいているところでございます。こちらについては、事業強化の視点に従いまして「国の事業として特色のある事業設計」「密度の高い交流環境の創造」「様々な人が参加しやすい環境の整備」という視点で整理をさせていただいております。

12ページ目で、少し追加をしたところを御紹介させていただきます。下から2つ目のポツのところでございますけれども、「事前の準備として、『未来志向』で将来のあるべき社会像やその中における自身の役割・貢献等の目的意識を持ち、事業への参加を通じて達成すべき目標などを定めておくことも効果的」ということを前回の御議論を踏まえて追記させていただいております。

14ページ目以降は「事後活動段階」ということで整理をさせていただいております。こちらについては、ネットワークの強化、見える化という視点で整理をさせていただいております。こちらもおおむね前回のものを引いておりますけれども、1点、15ページ目の一番下のところにありますが、見える化に当たっては、マクロだけではなくてミクロの活動の見える化もしっかり図っていくことが求められるということで、こちらについてはその視点を追記させていただいております。

その上で「5. 事業強化の視点を踏まえた新たなプログラムの方向性」でございます。こちらについては、別紙という形で具体論を取りまとめさせていただいておりますけれども、そもそもこの新しいプログラムがどこに適用されるものなのかを明示したほうがいいのではないかと御議論もあったかと思っております。こちらについては、15ページ目の1つ目のポツで、4番目の全体の考え方というのは各事業のプログラムに適用し得るものであるという考え方があるつつ、一つ具体化をしている新たなプログラムの設計、方向性ということについては、「船事業について言えば」ということで少し具体的に書かせていただ

いたという形でございます。

その上で、最後「おわりに」でございます。おおむね御了解いただいたところかなと思いますが、最後のところで「輩出していくことを目指す」ということで、事業の成功に向けた強い気持ちを表現させていただいたところが少し変更させていただいたところがございます。

以上が、最終的な報告書（案）の取りまとめでございます。

最後、別紙でございますけれども、どこが強調のポイントなのかというところで、少しビジュアルライズに、強調のところをゴシック体にして傍線を引かせていただく形で整理させていただいているものでございます。

以上、私からの御説明でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

南島座長 御丁寧に御説明いただきましてありがとうございました。

本日は、この報告書（案）と別紙がこの検討会の成果物となりますので、それを最終的に御確認いただくということでございます。

ここから皆様方に御意見を拝聴してまいりたいと思いますけれども、修正を要する箇所については、「何ページのここをこういうふうに修正していただきたい」と具体的に御指摘をいただければと思います。

私のほうから先に申し上げたいと思います。

16ページ「おわりに」の前ですけれども、上に四角囲みで書いていただいている箇所があります。「意欲の高い青年の参加に向けた」から始まる箇所です。この枠組みはかなり重要なポイントになる部分でありますけれども、キャプションがこれだけついていない。その前の部分は図表1 - 1とか1 - 2とか書いてあるのですけれども、これはキャプションがついていなくて、ぱっと見た方は、これは何のまとめなのかなと思われると思うので、何らかのキャプションをつけていただきたいと思います。例えば「新たなプログラムの方向性」とか「検討会のポイント」とか、表題は何でもいいかと思いますが、キャプションが表題をつけていただくようお願いいたします。

今みたいな感じでかなり具体的に御指摘をいただければと思っております。

それでは、委員の皆様の方には、この原案文、報告書（案）について事務局からも事前に提示があって御一読いただいているということをお伺いしておりますので、さらに修正、追記すべき点がありましたら、御意見をお願いしたいと思います。

どなたからでも結構ですけれども、いかがでございましょうか。

中村委員、よろしくお願いいたします。

中村委員 ありがとうございます。

単なる文章のミスを見つただけなのですけれども、せっかく見つけたので提起させていただいてよろしいでしょうか。

南島座長 お願いいたします。

中村委員 7ページ目。ミスなのかどうか分からないのですけれども、「国際・地域

感覚（Glocal）」の「課題解決を具体的な行動につなげる」の「具体的な行動」という表現がちょっとしっくり来なかったので、「具体的な行動」のほうが日本語として分かりやすいかなと思った点が1点です。

その次はまさに単なるミスだと思うのですが、9ページ目の「4．新たな青年国際交流事業の在り方」の丸ポツの3番目が「新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、情報通信技術」になっていて、「技」が1つ多いかと思いました。

拝見させていただいたときにこの2点を単なるミスとして気づきましたので。あとは全体として本当によくまとめていただいたと思いました。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

今の2カ所はそのまま修正させていただく箇所だと思います。

事務局から何かレスポンスはありますか。よろしいですか。

梅田参事官補佐 ありがとうございます。

南島座長 そうでしたら、今の御指摘に近いところで、私もちょっと申し上げたいと思います。

今、7ページの「具体的」というところを御指摘いただいたかと思います。表題が「Glocal」となっております。「グローバル」は入っております。ローカルは日本語になって「地域」と書かれています。ここは「ローカル」と書かれたほうが表題が生きるかなと思いますので、御検討いただければと思います。今のに近いところです。

ほかはいかがでしょうか。

川澤委員、よろしく願いいたします。

川澤委員 ありがとうございます。

資料の10ページの1つ目のポツなのですけれども、「例えば、従来の試験に加えて、『将来設計書』を提出してもらい、選考に取り入れることも有用」という記載がございます。先ほどの御説明で、12ページの下から2つ目のポツに「事前の準備として、『未来志向』で将来のあるべき社会像や、目的意識を持ち」という記載がございました。これは、従来の試験に加えて選考に際して提出してもらおう将来設計書でこういった目標などを記載していただくという関係性なのかということの確認です。

もう一点確認は「従来の試験に加えて、『将来設計書』を提出してもらい」でいいのかなと。加えるのか、従来の試験を再設計するのか、そのあたりはいかがかなと思いました。令和3年度第2回の資料を拝見しますと、参加申込書で履歴書とか作文とか提出してもらっていると思うのですが、それに加えて審査のボリュームを増やすことにするのか、全体の内容を見直すのか、そのあたりはいかがでしょうか。

南島座長 事務局、回答をいただいてよろしいでしょうか。

梅田参事官補佐 ありがとうございます。

まず後ろのほうからお話をさせていただきます。この将来設計書の提出は従来に加え

てということでございましたけれども、確かに、ベースのところは今までの試験を踏襲しつつという形ではありますが、全てそれに完全にオンするという形になるか、少し再整理をしていくべきかというのは、例えば今まで作文を課していたところを将来設計書に変えるのかとか、いろいろな考え方があるのかなとは思っております。そういう意味では、この「加えて」という表現が適切なのかどうか、従来の試験をベースになのかはちょっと分からないですけれども、そのあたり、表現のほうも実態に沿った形で整理させていただければいいかなと思っておりますというのが1点目です。

もう一つ、12ページ目に記載させていただいている「自身の役割・貢献等の目的意識を持ち」という目標の設定について、どういう設計でやっていくべきかというところで、将来設計書にこういう視点を書いてもらうということも確かに一案かなと思っております。一方で、選考が終わった後にこういう形で設定をさせていただくというのもあり得る選択肢なのかなと思っております。

その点でいうと、募集・選考の段階でどの程度の負担を課して選考に臨んでいただくのか、また、プログラムの中で設定していくのかというところを今後検討していかなければならないのかなとは思っているところでございます。

私からは以上でございます。

南島座長 ありがとうございます。

補足をさせていただきます。あと、対応方針について御協議申し上げたいと思います。

まず、令和の新事業においては事前の準備段階をこれまでよりも充実させるという方向性が出ていたかと思えます。ここは御同意いただける部分かなと思えます。

その上で、今の箇所ですけれども、かなりオペレーティブな部分なので、今の内閣府側の御回答だと決まっていないということであるかと思えます。1つは、選考段階で将来設計書を出していただくことも有用ではないかということ。それから、プログラムの実施段階でというのが12ページになりますけれども、ディスカッションの内容について未来志向で議論していく、目標をきちっと意識しながら議論していくということを少し加えてはどうかという御意見を吸収したものと理解しております。

オペレーティブなところでどうするかが決まっていないということなので、ここから御提案ですけれども、10ページにおいては「従来の試験に加えて」を削除する。募集段階ですので、ここは1つの提案として書かれている部分ですから、従来の試験に加えるか加えないかというのは、まだ募集の詳細な設計ができないと議論できないところかと思えますので、「従来の試験に加えて」というのを削除する。削除しても、本検討会の提案としては、この将来設計書を選考に取り入れることも意味があることではないかということについては変わるところがないので、「従来の試験に加えて」を削除するというのが対応としては妥当なのかなと思えます。

12ページです。これも「事前の準備として」と書いているところがあらかじめ出した将来設計書との関係で気になるかと思えますが、ここで書かれている内容は、密度の

濃い交流環境の創造のために目的意識を持つべきだということでもありますので、その趣旨が伝わるように「事前の準備として」を削除するというのが対応としては妥当かなと思います。

川澤委員、そういう対応でいかがでしょうか。

川澤委員 座長がおっしゃっていただいた10ページの「従来の試験に加えて」を削除というのは賛成です。

12ページの「事前の準備として」のところは削除してもしなくても、今の御説明で理解いたしましたので、その御判断はお任せいたします。ありがとうございます。

南島座長 ありがとうございます。

そうしますと、川澤委員の御指摘に対応するということと言いますと、10ページの「従来の試験に加えて」のみを削除、「事前の準備として」はひとまず残しておくということで改めて御提案をいたしたいと思います。

以上の修正、よろしゅうございますでしょうか。

それでは、そのように対応をお願いしたいと思います。「従来の試験に加えて」は削除でございます。

その他、いかがでございましょうか。

家島委員、お願いいたします。

家島委員 よろしく申し上げます。

瑣末な点かもしれませんが、テクニカルな部分ではあるのですが、3点プラス1、お願いしたいと思います。

まずは、別紙の一番左のSTEP1の ところのフォントがちょっと小さいので、12ポイントにしてほしいということが1点。

それから、別紙のほうではMSゴシック体とMS明朝体で書かれていて、字の大きさは12ポイントと11ポイントになっているのですが、私がぱっと見たときにちょっと見にくいかなと思ったので。もしかすると、見出しがゴシックで本文が明朝だと締まりがあるのかもしれないのですが、こういった図表で字体の変更等が可能であれば、UDフォント（ユニバーサルデザインフォント）というのがありますので、誰でも見やすい、いわゆる色覚障害だったり、そういった方にも読みやすいフォントを使っただけで。せっかくダイバーシティにこれから変えていくのだといっている中でその資料が全然ダイバーシティ対応ではないというのはちょっと残念な気もするので、可能な範囲でUDフォントを使っただけであればありがたいというのが1点です。

本文のほうに移っていただきまして、9ページの図表4です。テクニカルなところで、上の人材像の黄色、緑、ピンク、青、灰色のところと、下の「意欲の高い青年」「効果的プログラムの」「グローバルネットワークを生かした活発な事後活動」のところと同じ色を使っているので、ここの部分が関係あるのかないのかということが少し気になりました。独立しているのであれば独立した色を使うほうがいいかなと。もし同じ色にしている

ことに何か意味があるのであれば、そろえたほうがいいのかと思った次第です。

上のほうに出てくる図表1から3のところではユニバーサルデザインが非常に意識されているといたしますか、色の違いではなくて、ドットとかスラッシュとかを使った、色覚障害の方にも優しいユニバーサルデザインの図表になっていて非常にいいなと感心したのですけれども、この図表4については、もしかすると、グレースケールになってしまうと色の違いが見えないであるとか、そういったこともあるのかなと思ったので、そのあたりの配慮をいただければいいなと思った次第です。

また、関連して、7ページです。「未来志向」「多様性」「コラボレーション」「国際・地域感覚」「社会貢献」の順番に何か意味があるのかどうかというところです。例えば「Future」「Diversity」「Collaboration」「Glocal」「Contribution」ときているのですけれども、「Glocal」だけが形容詞になっているので、例えばこれを「Glocality」として、「Future」「Diversity」「Glocality」「Collaboration」「Contribution」というふうに、FDGCCみたいな感じの並び方にはなってしまうのですけれども、この順番に特に問題がないのであれば、そういったもので順番をそろえてもいいのかなとも思いました。1つだけ、名詞形ではなくて形容詞形があるのも何か意味があるのであればこのままでいいと思います。名詞形とかにそろえてもいいのかなと思った次第です。この順番と名詞・形容詞というところに何か意味があるのかどうか、意味があるのであればあるように説明すればいいかなとも思いました。これが2点目です。

1点目は、先ほど言った色の部分のダイバーシティ対応、ユニバーサルデザインを使ってほしいということ、2点目は、もし可能であればこの順番を意識してほしいということ、3点目が、この文章全体のフォントですね。UDフォントというのがあるので、明朝、遊明朝、ゴシックと、3種類が出てくるので、そのフォントについても、BIZUDPゴシックというのが私のお勧めです。最近、ユニバーサルデザインフォントを活用しているいろいろな書類を作ることが各省で推奨されていると思いますので、省庁のルールがあるかもしれませんが、御検討いただければと思った次第です。少なくとも、チラシとか募集の段階ではそういったユニバーサルデザインのフォントを使っていたいただければ幸いです。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

形式的な修正、ユニバーサルフォントにするとか色目の御指摘については事務局のほうで御検討いただいて、修正可能であれば修正をお願いしたいと思います。

最後におっしゃっていただいた「Glocality」についてですけれども、これは不可算名詞でよろしいですね。そうすると「Glocality」でいいですね。複数形にする必要はないかと思えます。品詞をそろえるということでございます。

この点について何か御意見がある方はおられますでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、今の御指摘を踏まえて、事務局に検討していただく部分と修正をしていただく部分があるということで整理をさせていただきます。ありがとうございます。

そのほかいかがでございましょうか。

日本語が冗長なところも御指摘いただいて構いません。いかがでしょう。

あとは、御自身の御意見が入っているかどうかというのは、お願いするまでもないかと思えますけれども、見ていただいて、もう少しこういうニュアンスだったのだけれどもというところがあれば、この場でぜひ御指摘いただければと思っております。いかがでしょうか。

では、ちょっとお考えいただいている間に、私から追加で幾つか修正をお願いしたいと思うことがありますので、申し上げたいと思います。私がコメントをしている間に、皆さん、コメントをお考えいただければと思います。

2ページ目から3ページ目にかけてですが、国際社会青年育成事業から始まって注を打っていただいております。この注が鍵括弧の内側に入っております。通常は、鍵括弧をしているので、鍵括弧の外側に注を打ちますので、差し支えなければ注はかぎ括弧の外側に出していただければと思います。点の前ですね。というふうなことが1点目です。

2点目。3ページの注6ですけれども、報告書に年号が入っておりませんので、「平成26年」という年号の御記入をお願いしたいと思います。

3点目。図表が全部で7つございます。1 - 1、1 - 2と章立てに合わせて書いていただいているのですが、10個を切っていますので、図表は、図1から7まで通し番号で「図1」「図2」「図3」「図5」「図6」「図7」でいいのではないかとと思われるので、御検討をお願いいたしたいと思います。

4点目に参ります。7ページ目、上のほうの「育成すべき青年の人材像」の3行目になります。文章としては「まずは、育成すべき人材像を具体的に設定した上で、その人材像を踏まえた事業の設計を行うべき」と書かれています。「人材像」が2回出てくるので、これは御検討いただければと思います。「育成すべき人材像を具体的に設定した上で事業の設計を行うべき」というふうにシンプルにしてもいいかなと思います。このままでも構わないのですけれども、ここを修正しますと1行減りまして「社会貢献」まで1ページの中で見せることができますので、御検討いただければと思っております。

以上の4点でございます。

形式的なものですので、事務局のほうで御対応、御確認をいただければということにしておきたいと思えます。

その他いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

中村委員、お願いいたします。

中村委員 すみません。この報告書に関するコメントはもうこれ以上は特にないのですが、ちょっと気になった点として、この報告書が今後どのような形で活用され、また、裏方の皆さんがどういう努力をされることによって実際にステージ上で活躍していただく青年たちのお役に立てるのか、その今後の流れの部分で今日このお話が一段落したところで事務局から多少御説明いただけるとありがたいかなと思いました。

その理由は、こうやって関わらせていただいた者として、どこかでまた改めてお役に立てることがあり得るのかどうなのかということも含めて、今後の方向性についての御説明もいただけるといいかなと思ったものですから、ここで一言述べさせていただきます。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

御指摘の点は事前の打合せでも我々も考えておりました、黒瀬室長から御挨拶をいただく中で表現をしていたかどうかという相談をしていたのです。ここで答えいただくと、黒瀬室長の御挨拶がなくなってしまうかなという心配はあるのですが、もしお答えいただけるのであれば、黒瀬室長は後で御挨拶をしていただくとして、若干の御説明をいただくことが可能であれば可能な範囲でお願いしたいと思います。いかがでしょう。

梅田参事官補佐 ありがとうございます。

それでは、先走って、少しだけお話しさせていただきます。

今回皆様方がおまとめいただいたものを生かして、我々は今後の事業設計をしていくこととなります。実際には、多分、来年度以降の事業の中でこの検討会の議論をしっかりと実装していくというのが私たちに求められる役割という形になってきますので、その際、皆様方から御知見、アドバイスなどもいただけるようなことがあれば、ぜひともお願いしたいと思っていますところでございます。

最後に取りまとめた後にまた改めてお話をさせていただければと思いますけれども、よろしく願いいたします。

南島座長 ありがとうございます。

そろそろ意見も出尽くしているようにも見受けられますけれども、その他いかがでございましょうか。

菊地委員、お願いいたします。

菊地委員 ありがとうございます。

改めて、取りまとめでいただきましてありがとうございます。私からは2点です。細かいところになるのですが、ちょっと気になったところを指摘させていただければと思います。

資料の7ページ目の「次世代グローバル・リーダーに求められる5つの要素」の「多様性」の説明で「各分野にわたる地球規模の困難な課題を未来志向で解決していくためには、多様な知恵や考え方をもち寄ることが不可欠であり、国籍はもちろんのこと、地域、性別、障害の有無、業種・分野等に関わらず、異なる存在を受容する力を持つことがリーダーには求められる」と書いてあるのですが、エンパシーのところをもうちょっと追記したほうがいいのかと思っていて、例えば「異なる存在を受容する力を持ち、相手の立場に立って行動することがリーダーには求められる」というふうに変更したほうがいいのかというのが1つ目です。

もう一つは、その次の のところです。ここも説明文で「行動に移るようにまとめていく力がリーダーには求められる」と書いてあります。もちろんそれはそうなのですが、それだと、いわゆる率いるリーダーシップのほうしか書かれていないような気がします。例えばフォロワーだとかいろいろなリーダーシップがあると思うので、そこを追記するのはいかがかなと思いました。例えば「行動に移るようにまとめ、必要に応じて自らの役割を見出す力がリーダーには求められる」というふうな感じに変えるといいかなと思いました。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

後半のほうですけれども、「まとめ、必要に応じて」のところをもう一度おっしゃっていただいてもよろしいでしょうか。

菊地委員 「必要に応じて自らの役割を見出す力がリーダーには求められる」。そうすると、 も も文章が長くなってしまうので、どこで区切りをつけてどうまとめるかはお任せします。

南島座長 今の後者の御指摘は、フォロワーシップの話もされていましたが、フォロワーシップだと「自らの役割を見出す力が求められる」でまとめてもいいような。リーダーであれ、フォロワーであれというふうな読み方ができるようにまとめてもいいような気もいたしますけれども、どうでしょうか。「リーダーには求められる」があったほうがよろしいですか。

菊地委員 必要に応じて自らの役割を見出すことが必要ということですか。

南島座長 フォロワーシップをおっしゃっていただいたので。最後が「リーダーには求められる」となると、リーダーシップの話になるので、フォロワーシップの話も含めようとすると、「必要に応じて自らの役割を見出す力が求められる」で、リーダーの話は外してしまってもいいかなとも思うのですが。

菊地委員 はい。

南島座長 冠には「グローバル・リーダーに求められる5つの要素」というふうには書いてあります。

菊地委員 私のリーダーの定義が異なるかもしれないのですが、フォロワーシップもリーダーの一つという認識なので、「リーダーには求められる」と書いても違和感はないです。

南島座長 なるほど。「リーダーには求められる」と書いても違和感はないということですね。分かりました。

どうでしょうか。「 未来志向」は「リーダーであることが求められる」。 が「リーダーには求められる」。 は、今、「リーダーには求められる」と書いてあります。ここをどうするかです。 は「実践力を持つことが必要である」、 は「継続的に行うことが求められる」と書かれている。 、 は、リーダーとは必ずしも書かれていない内容に

なっていますので、フォロワーシップのことも念頭に置くのであれば、「必要に応じて自らの役割を見出す力が求められる」でまとめてもいいかなと思います。のところは「相手の立場に立って考える力がリーダーには求められる」ということで修正提案を承りました。

菊地委員 ありがとうございます。

南島座長 ありがとうございます。

それでは、改めてお諮りいたします。

今、御指摘いただいた多様性の部分について「異なる存在を受容する力を持ち、相手の立場に立って考える力がリーダーには求められる」という修正の御提案です。

「コラボレーション」について「行動に移るようにまとめ、必要に応じて自らの役割を見出す力が求められる」というのが修正提案となります。

今の御提案について、御意見等ございましたらお願いいたします。

川澤委員、お願いいたします。

川澤委員 今の修正については異論なしですけれども、の「リーダーであることが求められる」も の「リーダーには求められる」も必要ないのではないかという気もしたのです。いかがですか。全体としてリーダーに求められることを書いているので、 、 のそれがなくてもいいのかなという気がしました。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

要は求められるという力。定義を変えて、未来志向の力、多様性に関する受容の力、コラボレーションの役割を見出していく力、国際・地域感覚は感覚ですけれども、これも実践力につなげていく力ですね。ということなので、今、さらに新しい御提案をいただきましたが、のところを「未来を語る力が求められる」という感じでよろしいですか。

川澤委員。

川澤委員 「力」でも「こと」でもいいと私は思うのです。「リーダーであること」というのを全部外して並びをよくしたほうがコンパクトになるかなと思いました。

南島座長 ありがとうございます。並びをよくして。「こと」のほうが据わりがいいですかね。

という御意見でございました。5つの要素について、 と と について、今、修正の御意見が出ているところでございます。

これらの点についてそのほか御意見ございますでしょうか。

家島委員、お願いいたします。続いて、宮崎委員。

家島委員 今、チャットにも書いてしまったのですが、実際、グローバル・リーダーの定義については脚注等で幾つか補足をしてもいいのかなと思いました。例えば「グローバル」だけではなくて「ローカル」もとか、「リーダーシップ」だけではなくて「フォロワーシップ」もみたいな話は、多分、幾らでも言えると思うので、ここでは詳しく書

くのではなく、先ほど川澤委員がおっしゃられたように、全語尾を「 」することが求められる」で統一してしまったほうがきれいかなと思いました。というのが1点です。繰り返しになってしまいましたが。

もう一個は、「5つの要素」の「5つ」がアラビア数字になっているのですけれども、上のほうでは「三つの」というところが漢数字になっていたの。漢数字でもアラビア数字でもいいと思うのですけれども、1つの文章の中ではもしかしたら統一したほうがきれいかなとは思ったという表記上の問題だけです。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

「三つの局面」についての御指摘をいただきました。「三つの局面」については、目次との関係で数字が並ぶと読みにくいということがあって、「三つの局面」は漢数字で表現をするということで統一させていただいておりますが、お許しいただけますでしょうかということになるかと思えます。

ありがとうございます。

あとは、「こと」ということで、それでいくということですね。ありがとうございます。

宮寄委員、よろしく願いいたします。

宮寄委員 「 未来志向」のところで「地球規模の課題」、 のところで「各分野にわたる地球規模の困難な課題」、 のところに「地球規模の課題解決」というのがあって、この5つ項目のうち地球規模の課題というのが3つ入っているので、ちょっと多いかなというのがあります。例えば「 多様性」のところは「地球規模の」を取っても問題ないかなと思います。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

「地球規模の課題」がちょっと多過ぎるので、1つ間引かせていただくということですね。ありがとうございます。 のところについては「各分野にわたる困難な課題」ということで、「地球規模の」を外すという御提案でございます。

まとめます。この5つの要素につきましては、全体に語尾を「こと」とすることができるところについては「こと」でそろえていくという御提案。それから「 多様性」については「地球規模の」を外すという御提案。あわせて、 のところでは「相手の立場になって考える力が求められる」という形での修正の御提案。 のところでは「必要に応じて自らの役割を見出す力が求められる」という御提案です。

以上の修正、一括してお伺いしたいと思います。

家島委員、どうぞ。

家島委員 ありがとうございます。

宮寄委員の指摘で私も改めて気づかされたのですけれども、まさに と と に「地球規模の」というのが出ていますので、まとめりとしてこの5つは 、 、 が一つの固ま

りなのかなと。単語的にもそうかなと思ったので、もし差し支えなければ、
、
、
の順番のほうが自然な流れかなと思いました。が時間軸で、が空間軸で、時間軸と空間軸の中で出てくる多様性というのをとして意識して、その多様性を多様な人たちとコラボレーションする中で全体に社会貢献していくといった流れかなと思ったので、
、
、
、
の順番をもし並び替えてもいいのであれば、
、
、
、
にしたほうがプログラムの流れだったり自然な形になるのかなと思いました。御検討いただければ幸いです。固執するものではございません。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

順番については後から相談させていただきます。

まずは、からまでの文章の中身の修正について御意見ございますでしょうか。今の御提案で直させていただいてよろしゅうございますでしょうか。

それでは、そのように取り扱わせていただきます。ありがとうございます。

続きまして、今ほど家島委員から御指摘がございました順番の変更についてです。一応考え方としては「未来志向」「多様性」のところは募集段階に係る、「コラボレーション」「国際・地域感覚」については実施段階に係る、「社会貢献」については事後段階に係るという形での整理を置いてこういう並べ方をしておりました。ただ、おっしゃるとおり、「国際・地域感覚(Glocal)」というのは、最初「未来志向」のところに「地球規模の課題」と書いているので、重複感があるので整理してはどうかという御指摘は、これはこれであり得る御指摘だろうと思います。

順番の変更についてですけれども、御意見が強ければ検討させていただきたいと思いますが、全体の構造に関わるようなところもありますので、原案としてはこのままにさせていただきたいと思っているところでもあります。この点について何か御意見ある方、お願いいたします。

川澤委員、お願いいたします。

川澤委員 すみません、ありがとうございます。

私も家島先生の御意見に賛成で、多分、グローバル・リーダーに求められる人材像について、募集の際に応募された方とかに説明する必要があると思うのです。どういう人材を募集するのかというところで。その意味で、今、未来志向で時間軸、空間軸、その後という形で、今、整理していただいた考え方が非常にしっくりくるな、どういう人物像なのかというのがしっくりくるなと思いました。多分、事業の段階はいわゆる事業設計側の話なのだと思うのですけれども、応募される方から見ると、その人物像についての説明は家島委員の順番のほうがいいのではないかと思いました。

以上です。

南島座長 ありがとうございます。

それでは、事務局にちょっとお尋ねしたいと思います。梅田さんにお伺いしたいと思

ますが、この部分、順番を入れ替えることはいかがでしょう。

梅田参事官補佐 ありがとうございます。

今、家島先生から、そして川澤先生からもお話ございましたけれども、これは、特に募集の段階で皆様方によく分かっていただくというのが重要な視点だと思いますし、今お話を聞いて、この順番を入れ替えたほうが全体の整理ができやすいかなと思いましたが、そのような形で修正をさせていただければいいかなと思ってございます。

それから、もう一点だけ。すみません、こちらは事務局のほうでの確認でございます。先ほどの多様性のところで「相手の立場に立って」というところがございました。先ほど菊地委員から「相手の立場に立って行動することが」ということでお話をいただいたかなと思っております、そこまで含めて修文をさせていただいたほうがよろしければ、そのような形にさせていただこうかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

南島座長 菊地委員に今度はバトンが渡りましたが。「考える」か「行動する」かですね。

菊地委員 そうですね。「行動」でよろしければ、そちらでお願いします。

南島座長 「行動」ということでございます。

梅田参事官補佐 ありがとうございます。

南島座長 若干複雑になってまいりましたけれども、「考える」のところが「行動する」という御提案です。改めておきたいと思えます。

「次世代グローバル・リーダーに求められる5つの要素」。順番に関しては、今、御相談しておりますけれども、そうしましたら、事務局を含めまして、全体の構造にも関わる部分もありますので、これはお預かりいただいて御検討いただくということでよろしいですか。

お預かりいただいて御検討いただくということでお願いいたします。この場での御意見を最大限尊重させていただくということでの取扱いにさせていただきたいと思えます。

そのほかいかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

それでは、以上の修正等をさせていただいて、報告書については確定をさせていただきたいと思えます。修正のあった(案)を先生方にも御確認いただいたりするかと思えますけれども、その際には御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、審議事項は、特にここで意見を言っておきたいということがなければここまでとさせていただきたいと思えますが、よろしゅうございますでしょうか。

本日は最終回でございます。短くて大変申し訳ありませんけれども、1分以内でお1人ずつ御挨拶をいただいて、コンクルージョンにしていきたいと思えます。

それでは、オブザーバーも含めまして御発言をいただきます。家島委員、川澤委員、菊地委員、中村委員、宮寄委員、それからオブザーバーの駒形理事長、千葉副部長という順番でまいりたいと思えます。申し訳ありません。短くお願いいたします。

家島委員、お願いいたします。

家島委員 ありがとうございました。大変お世話になりました。内閣府、そして関わった皆様に感謝申し上げます。

最後に一言、私はキャリア教育の専門家なので、このプログラムが個人のキャリア形成に資するという部分もしっかり強調していただき、それが個人のキャリア形成を超えて社会とか国際社会の貢献につながるといったところをしっかりと打ち出して広報していただければと思います。

以上です。ありがとうございました。

南島座長 ありがとうございます。

それでは、川澤委員、お願いいたします。

川澤委員 ありがとうございました。

とても充実したプログラムになるのではないかと期待をしております。ただ、地域の実践活動のプランニングで、地域の公共団体との連携というのがあるかと思うのですが、恐らく、早めに巻き込んでいただいてうまく連携していただくことが必要ではないかと思っておりますので、ぜひお願いしたいと思っております。

以上です。ありがとうございました。

南島座長 ありがとうございます。

菊地委員、お願いいたします。

菊地委員 6回にわたりまして議論をありがとうございました。オンラインとリアルのいいところ取りをしたハイブリッド型のよいプログラムができたのではないかと思います。まさにラーニング・バイ・ドゥーイングのプログラムで、今後が楽しみかと思っております。いいプログラムが作れたので、今後それをうまく実行できるかがポイントかと思っておりますので、そこが期待と今後の楽しみかなと思っております。ありがとうございます。

南島座長 ありがとうございます。

中村委員、お願いいたします。

中村委員 ありがとうございます。

様々な委員の方の異なる視点を聞くことができ、大変勉強になりました。今後、実際に本当にいい舞台を用意するためには、裏方が相当頑張らなくてはいけないな、裏方の力量にかかっているなと思われましたので、内閣府やらこの事業を委託する方、また我々のような何らかの形で裏方として関わられる人間が力を結集して、青年たちが国際親善に役立つようなよい人間関係を築いて、将来何かあったときにぎりぎりでも平和を保てる人間関係を築けるようなすばらしいリーダーたちを育てる舞台を用意できればと思いました。

以上です。ありがとうございました。

南島座長 ありがとうございます。

では、青年国際交流推進センター、駒形理事長、お願いいたします。

駒形オブザーバー ありがとうございます。

今回、6回にわたって、南島座長をはじめ、委員の皆様方、内閣府の皆様方、令和の新

事業の取りまとめに当たって大変御努力いただきまして、感謝申し上げたいと思います。私からは、31回の世界青年の船で一緒だったスウェーデンのナショナルリーダーが報告書で事業の評価として言っていることの中から一言紹介して終わりたいと思います。

彼女のこの事業への提案として、「世界青年の船の事業は世界に変化をもたらす高い志を持った国際的なコミュニティに加わるチケットなのだとすることを強調すること」と言われてました。この事業に参加して、最後に修了証書をもらうのですが、修了証書をもって終わりではなくて、まさにその修了証書がこれからの世界中に待つ新しいネットワークに加わって事後活動をやっていくためのチケットだということを、これから参加する皆さんの心にしっかり種を植えていただきたいと思います。この令和の新事業に参加して良かったと言ってもらえるようにこれから具体的なプログラム設計など、関係者の皆さんもしっかり努力して進めていただくことを期待して、感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

南島座長 ありがとうございます。

それでは、日本旅行業協会、千葉副部長、お願いいたします。

千葉オブザーバー ありがとうございます。

これから今回の御提言書がより具体的な肉づけをされていくことになっていくかと思えます。有意義なプログラムの誕生に期待をしておりますし、また、実施の際には、我々旅行業界並びに観光業界が一丸となって今回のプロジェクトを成功裏に導けるよう微力を尽くさせていただきたいと考えております。本当にありがとうございました。

南島座長 ありがとうございます。

宮崎委員、すみません、飛ばしてしまいましたでしょうか。大変失礼いたしました。宮崎委員、お願いいたします。

宮崎委員 ありがとうございます。

非常にいい議論ができたと思っております。非常によいプログラムができたので、これから楽しみにしております。社会人の参加を増やすということが一つ課題だったと思いますので、今後も何か御協力させていただければと思います。引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

南島座長 ありがとうございます。大変失礼いたしました。

大変充実した御議論をいただきました。6回にわたって皆様にたくさんの御議論をいただいたこと、また熱心に御参加いただいたことに御礼を申し上げたいと思います。

タイムオーバーでございますが、大変申し訳ございません。最後に内閣府の黒瀬青年国際交流担当室長からも一言お願いを申し上げます。

黒瀬青年国際交流担当室長 皆さん、どうもありがとうございました。内閣府の黒瀬でございます。

6回にわたり非常に充実した御意見をいただきまして、本当にありがとうございます。第1回のおきも、私、少し申し上げたのですが、この国際交流事業は昭和30年代か

ら始まった非常に歴史のある事業でもあります。そして、伝統に根差して様々な成果も生んできていると思います。一方で、令和の時代の中であって、この時代の要請に応じてアップデートしようということで、ある意味、前提を置くことなく徹底的な議論をということをお願い申し上げていたところでございますけれども、委員、オブザーバーの皆様、それぞれの御経験とか知見をフルに発揮していただいて、大変活発な御議論をいただきました。本当にありがとうございます。

本日も非常に議論をいただきましたが、多面的であるがゆえに、この育成すべき次世代グローバル・リーダー像というのが曖昧にもなりがちであったわけです。そちらについても明確にさせていただいた上で、その育成に向けて、例えば仕込み段階からのチームビルディングですとか、議論だけに終わらせないで現場で実践していくといったこと、また振り返りをしていくといった様々な新機軸についても打ち出させていただきました。

その中で大きな要素は、地域を巻き込んでいくということで先ほども御意見をいただきましたが、これを早めに押し込んでいく必要があると思います。それと同時に、地域と既参加青年をどんどん巻き込んでいって、そういうことによって、一過性ではなくて持続可能な参加青年同士のコミュニティが世界の国境を越えて大きな力になっていくと思いますし、そのような御示唆もいただいたのだと思っております。そんな意味でも、この事後活動の部分の活性化も非常に重要になってくると思います。御指摘をいただきましたが、国際親善というのは昭和からずっと貫いてきた精神なわけですがけれども、こちらも忘れることなくしっかりと引き継いでいくべきであると改めて感じた次第でございます。いずれにしましても、こうやっていただいた御意見は我々にとってみるとまさに道しるべのようなものでございますので、これを大事にしながらしっかりと進んでいきたいと思っております。

いずれにしても、先ほど御意見もありましたけれども、大事なことはこれを事業にいかん落とし込んでいくかということとして、実はここから我々にとっての正念場であると考えております。事務的に申し上げますと、この報告書の確定版については早々に内閣府のホームページに掲載させていただきたいと思っております。今後、この報告書をもとに、まず来年度の予算要求、概算要求をしていって、年末までにこれを具体的に肉づけしていくことで、来年度から充実したメニューのもとで令和の新事業として改めて再スタートしていきたいと考えております。

そんな中で、いかにここに魂を込めていくかということなわけですが、容易ではないとは思っております。それぞれいろいろなネットワークがあります。例えば地域の関係者等も我々もいろいろつないでいきたいと思っております。それから、国際分野で活動しておられる方、OBの方、いろいろな人たちをうまくつなげることによって新しい化学反応が起きるような場を我々としても設定したいと思っております。また、皆様方からもそういったお知恵について引き続き拝借しながら、発展するように我々としてもサポートしていきたいし、実施に当たっていききたいと思っております。

いずれにしても、非常に意欲的なプログラムでありますので、来年度、我々は必死に具

体化をしていきたいと考えておりますけれども、皆様方の御意見をいただきながら、かつ、じっくり育てるといふことも大事かなと思っております。来年度、とりあえず完璧を期してやってみるにしても、反省点もあるかと思っておりますので、そこをうまくPDCAを回しながら、より充実した事業にしていきたい。

また、地域を巻き込む際には、地域を巻き込むことによってその地域地域でのニュースバリューといったことも出てくるでしょうし、それが日本国内への、また世界への発信にもつながっていく。これがこの事業に関心を持っていただける層を広げることにもなるのではないかと考えております。いろいろな局面を考えながら、この事業が進化、成長していけるように努力をしていきたいと考えております。

いずれにしましても、今後とも皆様方には、この事業の応援団であり、理解者であり、時には厳しいお言葉をいただくということもぜひ引き続きお願いしたいと考えております。私どもも情報についてできる限り皆様と共有させていただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

いずれにしましても、半年間にわたる熱心な御議論、本当にどうもありがとうございました。

南島座長 大変熱のこもった御挨拶を頂戴しました。ありがとうございました。

御発言がほかになれば、これでこの会議は閉めさせていただきたいと存じます。よろしいですか。

それでは、タイムオーバーになりまして大変申し訳ありませんでした。これをもちまして「青年国際交流事業の在り方検討会」を終了させていただきます。

皆様、本当にどうもありがとうございました。